

# 伝統文化・技術を明日に伝える！

近年の企業経営は、AIやIoT、5Gなどの先端技術への対応に加え、人口減少に端を発する労働力不足や市場規模の縮小が見込まれるなど、先行き不透明な荒波をいかに舵取りしていくかが重要なポイントとなっています。

こうした中で、地域には数々の誇るべき伝統文化や技術が存在しており、ときには形を変えながらその文化や技術を今日まで伝えてきました。

今月号では、仙台の老舗企業を経営する方々をお招きして、次世代に継承すべき地域の伝統文化や技術とは何かを明らかにしながら、仙台・宮城における震災からの復興と、その先につながる地方創生を生き抜くヒントについて伺いました。

## 地域に愛されることで老舗企業が育つ

**進行** はじめに、皆さまの事業内容をご紹介します。

**今野** 弊社は今年、創業100年目に入りました。約65年間は日本茶の小売、卸売業でやってまいりましたが、時代の流れの中で日本の伝統産業が減少傾向になり、何か新しいことを始めなければならぬと、35年ほど前に抹茶のソフトクリームを販売して人気となりました。また、「お茶を食べる」という切り口で始めた業態が「喜久水庵」です。さらに、和食の文化を大切にすることで、お茶にも良い影響があるのではないかと、5年前に「秋保ヴィレッジ」をつくりました。地元のお茶の皆さんを中心に、毎朝、野菜や加工品

特許技法に端を発します。それは「玉虫塗」と命名され、以来、今日までつくり続け、販売しています。

**輸出**して外貨を獲得する目的でスタートしましたので、外国人の趣向に合わせた色やツヤが特徴ですが、現在は国内外、両方に向けた商品開発を行っており、新しい材料やデザインを積極的に取り入れ、異業種の方々ともこれまで以上に連携していきたいと考えているところです。また現在、2020年東京オリンピック・パラリンピックの公式ライセンス商品を製造しており、注文も徐々に増えてきています。

**進行** 仙台・宮城における伝統文化や技術の重要性や優位性について、鎌田会頭はどうお考えですか。

**鎌田** 仙台商工会議所の会員企業のうち、

などを持つてきていただき、運営しています。  
**嘉藤** 弊社は1947年の創業以来、仙台・宮城のソウルフードである「笹かまぼこ」をつくり続けて73年を迎えます。現在は、笹かまぼこ、牛たん、惣菜の3つの分野で事業を展開し、これまで磨いてきた「すり身の技術」を生かしながら、「体にやさしいものづくり」をテーマとした商品開発に取り組むとともに、伝統技術を継承する若手の人材育成にも力を注いでいます。2019年7月には「笹かまぼこ」をリニューアルしまして、海外からのお客さまも多くなっています。  
**佐浦** 私どもは1933年に創業しまして、86年を迎えました。会社の成り立ちは産学連携の先駆けとも言われていますが、東北大学の金属材料研究所と、国のデザイン機関である国立工芸指導所で開発された

創業から100年以上続く会社は約250社あります。伊達政宗公が仙台城を築いたのが1600年で、仙台の歴史は400年余り。一方、京都には平安時代からの歴史があり、1000年以上も続く企業もあると聞いています。

都道府県別に創業100年以上の老舗企業の数を見ると、宮城県は約500社で26位。全国的に見て、決して多いとは言えない状況です。いま頑張っている企業が、老舗企業の仲間入りをしていけるよう、商工会議所としても支援を続けることが大切です。本日お集まりの皆さんは、普段使いの中で、お客さまからの「信頼」をいかに勝ち得ていくかに真摯に向き合ってきたからこそ、今日があるのだと思うので、ぜひ参考にさせていただきます。



株式会社鐘崎  
代表取締役社長

かとう あけみ  
**嘉藤 明美 氏**



お茶の井ヶ田株式会社  
取締役会長

こんの かつじ  
**今野 克二 氏**



仙台商工会議所 会頭  
株式会社七十七銀行 相談役

かまた ひろし  
**鎌田 宏 氏**



有限会社東北工芸製作所  
常務取締役

さうら  
**佐浦 みどり 氏**

## 人の手で守られてきた 企業の伝統文化と技術

**進行** 皆さまは、自社の伝統文化や技術が、今日まで存在し続けてこられた理由をどのように捉えていますか。

**今野** 先代から聞いた話ですが、「お客さまの声に耳を傾け、ご要望に応えるために工夫を重ねてきたこと」が、いまにつながっているのではないかと思います。実は10年ほど前から、仙台初売りの景品である「お茶箱」をつくる職人さんの高齢化が進み、作り手が減少して存続の危機にひんしていたのです。私自身、「仙台初売り」は、伊達政宗公がお城の近くに商人のまちをつくり、大切にしてくださいましたことから生まれたものであると思っています。楽しみに待っている方のためにも、お茶箱をやめることはできないと一念発起して、宮大工さんに試作してもらうなど、手を尽くしました。結果として、塩竈市で魚を運ぶ木箱を作製している企業にお願いすることになり、伝統文化を守ることができてほっとしています。

**佐浦** 玉虫塗をはじめ、仙台ならではの伝統文化や技術が残っているのは、企業の活動が続いているからではないかと思えます。玉虫塗のスタートは、いわばベンチャーでした。創業から50年ほど、仙台でものづくりを続けて、宮城県の伝統工芸品に指定されたのは1985年です。「東北を新しい技術で豊かにしよう」という挑戦が行われた仙台だからこそ、新しいものが長く続いて伝統工芸になり、歴史の中で愛され続けて

れていかなければなりません。

例えば、「次世代放射光施設」はその一つです。2023年に運用開始が予定されていますが、そうなれば、研究者や施設を利用する企業関係者など、世界中からたくさんの方が集まってまいります。こうしたことを最大限に生かして、科学技術の先端都市を目指し、都市としての差別化を図っていく事も大切なのではないのでしょうか。加えて本施設については、大企業だけではなく、地元中小企業の活用をいかに進めていくかが、地方創生の大きなカギになってまいります。仙台市では、この装置を使える権利を小分けにして補助する事業を実施していますので、私どもとしては、まずは地元中小企業に対して、本施設の有用性をしっかりと伝えていきたいと思っています。

また、まちづくりというと、全国各地では駅が中心になる事が多いと思います。仙台でも駅周辺のにぎわいは誰もが認識するところですが、大切なのは人の流れをそこで完結させず、いかに街を回遊してもらうかということです。定禅寺通をはじめとした仙台の顔となるべきポイントを生かした、面的な回遊性を高める仕組みづくりについて、知恵を絞っていく必要があるのではないのでしょうか。

## 継承していくところと 変えていくところ

**進行** 伝統文化や技術を伝えていく上で絶対に変えてはいけないところと、消費者の価値観などに合わせながら変えていくべ

使っていたことで残っているのではないかと感じます。

**嘉藤** 創業から73年、今日まで存続してこられたのは、ひとえに笹かまぼこの力であると考えています。この地の人々にとって、笹かまぼこがどんなに大切なものであるかを実感したのは、2011年の東日本大震災のときでした。製造ラインが復旧し、笹かまぼこをつくって店頭に並べましたところ、お客さまが駆け寄って来られて、「ありがとう」と涙ながらにお買い上げくださったのです。この光景を目の当たりにして、私たちは地域が大事にしてきた伝統の食文化を継承するために、まだまだ頑張っていかなければならないと感じました。

この地域には、かまぼこメーカーさんは数多くありますが、切磋琢磨することで技術も進歩してきましたし、仙台の笹かまぼこの品質も高められてきました。それを地元の方々がお土産や贈答品にご活用くださり、全国に広めてくださっていることで、笹かまぼこという伝統の食文化がいまに引き継がれているのではないかと思います。

**進行** 仙台のまちづくりを考える上でも、「仙台商らしさの追求」は大切な要素の一つだと思われませんが、その観点から、鎌田会頭のお考えをお聞かせください。

**鎌田** おっしゃる通り、今後の人口減少社会の中で、地方創生を進めていくためには、仙台にしかできないことを数多くつくり上げるのが重要です。「仙台七夕まつり」や「仙台初売り」といった伝統文化を大切に保ちながら、新しい要素を積極的に取り入

きとすることは、どのような点でしょうか。

**佐浦** 私たちは宮城県の伝統工芸品の指定を受けていますので、まずは仙台・宮城でつくり続けることが変えてはいけないものの一つです。もう一つは玉虫塗の製法です。銀色を塗った上に、半透明の層を重ねて奥行きやツヤを出すのが玉虫塗ですので、その工程を変えずに守り続けていく必要があります。一方で、ときには素材や塗料も変えてきましたし、現在も安定して同じ状態のものを供給できるよう、新しい素材や技術の開発にも地道に取り組んでいます。

販売の面では、当初は輸出向けに電気スタンドや洋食器などを開発し、つくっていたのですが、競争を経て、アメリカ兵が引き上げてしまうと、今度は日本人向けのお椀や重箱などをつくりました。高度経済成長期には、プラスチックなどの素材が増え、さらに最近では、「ナノコンポジット」という仙台発の新素材を玉虫塗に採用しています。産学官連携のコンソーシアムで生まれたこの素材を伝統工芸に取り入れることで、これまでとは異なる業界の方々とも、ものづくりをする機会が増え、玉虫塗の可能性が広がっているのを感じています。

**嘉藤** この事業の基本が「先人の知恵によって生まれた丁寧な手仕事にある」ということを忘れてはならないと肝に銘じています。そのため、職人の技術を若い世代に継承する意味でも、毎朝、生魚を仕入れてさばき、手仕事で全て仕上げることを意識的に続けています。

一方、新たに活用を考えているのがIoTです。かまぼこづくりには繊細な作業が必



要で、材料の質や温度、気温によって、人の手による微妙な焼き加減の調整が不可欠です。この部分の自動化を目指し、現在、実験を行っている段階です。また、時代背景や生活スタイルの変化に対応するために、お客さまの声を受けて大きく変えたのが、添加物を極力使わない商品づくりです。保存料、でんぷん、卵白も一切、使用していません。さらに、地元産の地域食材である仙台セリを笹かまぼこに混ぜ、冬限定の商品として提供したり、政宗公が仙台城に建てた御塩噌蔵<sup>ごえんそうくら</sup>で仕込まれた味噌の配合と同じ仕込みをした「ごえんそ味噌」とかまぼこを合わせた商品の開発など、仙台土産の新定番となる商品づくりにも力を入れています。

最近の消費者は、ストーリー性があるものに魅力を感じると言われていますので、新しい付加価値を高めるようなものづくりを目指したいと思っています。

**今野** お客さまの声、そして原材料を大切にしたいものをつくるということです。は、変えてはならないところですが、ただ、時代の流れが非常に速くなっていますので、それに合わせて、新たな挑戦も続けていかなければなりません。弊社は日ごろから商工会議所さん主催の研修会などに参加していますが、非常に良かったものの中に「まちゼミ」があります。実は、このノウハウを活用して、独自の「まちゼミ」のようなものを始めました。人口減少が進む中、店員を減らす業態も出てくると思いますが、お茶屋としては、店でお茶を飲んでほしいと提供したいのです。その

ためにも、仕事の効率化を図るべくRPA（※1）を導入し、SDGs（※2）に関する取り組みも始めています。例えば、お茶を急須で入れて飲む伝統文化を重んじることで、環境にはプラスになる可能性がある

**不透明な経済状況でのマーケット戦略**

**進行** 今後、人口減少に伴い、市場規模の縮小が予想されますが、どのように対



りませんが、現実的にそれだけでは難しいので、フィルター付きの冷茶用ボトルを販売しています。さらに、抹茶を簡単にたえられる容器を売り出しました。これを使えば、外国人の方にも、気軽に伝統文化に親しんでいただけたらと思います。

応じていこうとお考えですか。今後の経営戦略について、お聞かせください。  
**今野** 店に足を運んでいただける仕組みが必要であるということで、弊社では一番町店において、定額制で1日何回でも専用のボトルにお茶を入れて差し上げるサ

がると思いますので、オリンピック・パラリンピックでも同じような効果を期待します。またWiFi環境の充実、公共交通機関を使ったわかりやすいアクセスの解説などは、リピーターをつくる大きな要因になりますし、私たちが利用しますのも、この機会に再考していただければありがたいですね。

**今野** 私どもはお茶屋として、何年か前から日持ちのする商品を開発するなどして、オリンピックを含めたインバウンドに対する準備をしてきました。そこで、オリンピックでは、特にお茶やお抹茶で外国人をおもてなしすることに力を入れたいと考えています。日本の伝統文化を伝え、体感していただける雰囲気も大切にしたいと思っています。

**嘉藤** 旅行者が求めるのは、その土地ならではの独自性・唯一無二のストーリーです。「ここでしか体験できないコト」や「ここでしか味わえないモノ」を提供することが、最大の「おもてなし」になると考えています。弊社では、笹かま館内にある「鐘崎屋」や「七タミューシアム」を軸に、伝統の食文化や伝統行事に触れていただくことで、仙台・宮城の魅力アピールしたいと考えています。

**鎌田** 仙台空港では、今年バンコク線や大連・北京線が相次いで就航するなど、オリンピック・パラリンピック、インバウンド拡大に向けて、フォローの風が吹いています。また、2021年4月から9月にかけては「東北デザインেশョンキャンペーン」が実施予定となっております。国内外から

**まぢづくりの契機に**  
**進行** 2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに期待することや、まち全体としてのおもてなしのあり方についてのお考えをお聞かせください。  
**佐浦** 大きな行事のあとは交流する人たちが増え、新しい取り組みが次につな

ービスを開始しました。お客さまからはおむね好評のようです。また、仙台・宮城でもインバウンドが伸びているいま、外国人をターゲットとしたマーケットも狙っていきたくて考えているところです。  
**嘉藤** 近年の人口減少や少子高齢化に伴い、贈答市場は年々縮小していくと思われる。しかし、視点を変えれば新たなチャンスも見えてきます。例えば、「健康志向」という切り口で、笹かまぼこの優れた点である、良質なタンパク質が豊富で、低カロリーであるといった点を前面に押し出すなど、さらなるマーケットの拡大を図りたいと考えています。

**佐浦** 1年ほど前から、外国人の富裕層の方たちに向けた体験ツアーを企画しています。先ほど、今野会長がおっしゃっていたお抹茶を簡単にたてられる容器を私も購入しました（笑）。ちょうど昨日も5人の外国人の方々がお見えになり、それを使ってお抹茶をご用意して、定価でお買い上げいただいた玉虫塗の商品にご自身のお名前を入れる「時絵<sup>ときえ</sup>」という作業を体験していただきました。この企画がとても好評いただいていることから、これからのおもてなしを考える上でのヒントになるのではないかと考えています。また、外国からいらっしゃった方々を、玉虫塗の食器などを実際に使ってくださいている飲食店にご案内して、使い方も知っていただくようにしています。弊社だけではできないことを一緒にやってくださる方を増やし、おもてなしの時間や場所を豊かにしていきたいと思っています。

多くの来訪者が訪れます。中国の四書五経には、「観国之光（国の光を観る）」のが観光だと書かれていますが、やはり地域には「魅力あるもの」が必要です。その上で、来ていただいたお客さまの満足度をいかに高めていくかが、次なる訪問客獲得を左右します。この辺りは知恵の絞りどころであり、今後、仙台ならではのオンラインの取り組みがたくさん出てくるよう、関係者と共に考えてまいります。

**新年、「飛翔」するためのキーワードとは**  
**進行** 最後に、2020年が仙台・宮城にとって飛躍する1年となるためには、どのようなキーワードが必要になるとお考えでしょうか。

**佐浦** 「連携と共創」ということだと思っています。自分たちだけでなく、連携したり、協力してもらう人たちを巻き込むことで、付加価値の高いサービスや商品をつくるだけでなく、発信してもらったり、提案していただけたらいいのではないのでしょうか。

**嘉藤** ラグビーのワールドカップが日本で開催され、国中に感動を与えました。が、その中で、国も文化も異なる選手が一つになって臨む「ONE TEAM」という考え方に感銘を受けました。そこで「ONE 仙台。ONE 宮城。オンラインのストーリーでつながる、伝える」。こんなキーワードを考えてみました。観光客の再訪につながるよう、地域の魅力をどう発信して、何を届けるかは、仙台・宮

**まぢづくりの契機に**  
**進行** 2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに期待することや、まち全体としてのおもてなしのあり方についてのお考えをお聞かせください。  
**佐浦** 大きな行事のあとは交流する人たちが増え、新しい取り組みが次につな

城の結束にかかっているとと思っています。  
**今野** 「本業以外の部分で、地域社会にどう貢献するか」が、大切になってくると思います。例えば地球環境の問題にしても、消費者は問題意識をもって企業を見ている。これまで手がけてきたことを整理して、将来的に何をプラスしていくべきかを従業員と共に考えてまいります。

**鎌田** 私からは「次なるステージへの挑戦」という言葉を申し上げたいと思います。2020年度で震災復興という一つの大きなステージが区切りを迎えますが、前進するためには、ときには失敗を教訓にしながら、確実に半歩先、一歩先を見据えた歩みが大切であろうと思います。次の世代に、この豊かな地域を引き継いでいく上で必要と思われる新しい価値の創造に向けて、産学官民が共に考え、道筋を見いだしていく1年にしてまいりたいと考えておりますので、会員の皆さま、2020年もよろしくお願いたします。

**進行** 本日はありがとうございました。

**まぢづくりの契機に**  
**進行** 2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに期待することや、まち全体としてのおもてなしのあり方についてのお考えをお聞かせください。  
**佐浦** 大きな行事のあとは交流する人たちが増え、新しい取り組みが次につな

※1 RPA (Robotic Process Automation) ホワイトカラーのデスクワーク(主に定型作業)をソフトウェア型のロボットが代行・自動化する概念のこと。  
※2 SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けて掲げた、2030年を年限とする17の国際目標のこと(2015年9月の国連サミットで採択)。各項目において、「普遍性」、「包摂性」、「参画型」、「統合性」、「透明性」の5つの特徴がある。

※本座談会は2019年11月13日に行われたものです。